

平成 29 年度 大阪府中学生チャレンジテスト 結果と分析（東大阪市）

平成 29 年 6 月 21 日（水）に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト」について、東大阪市の結果及び分析を公表します。

●調査結果について●

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

●調査目的●（大阪府教育委員会作成の実施要領より）

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

●調査概要●

| | |
|---------|--|
| 実 施 日 | 平成 29 年 6 月 21 日（水） |
| 実施対象学年 | 中学校 3 年生 |
| 実 施 教 科 | 中学校 3 年生：国語・数学・英語・理科・社会 |
| 調査実施生徒数 | 中学校 3 年生 国語：3745 人 数学：3759 人 英語：3762 人 理科：3765 人 社会：3761 人 |

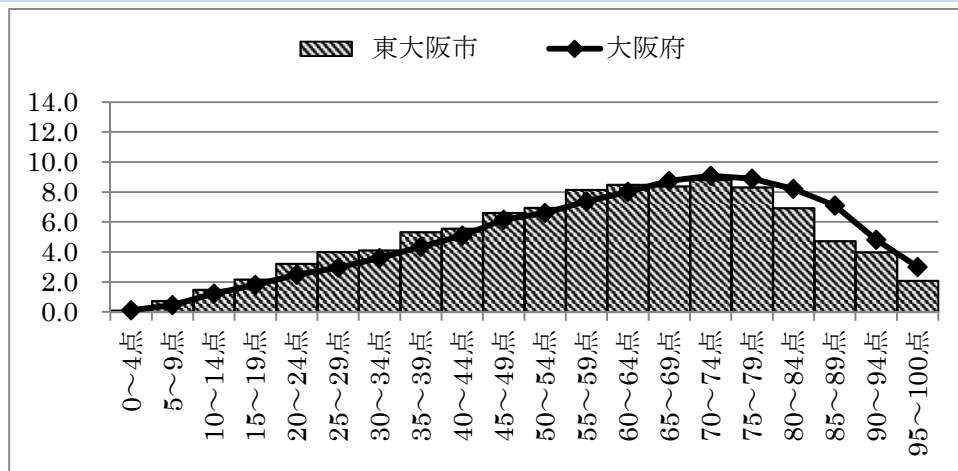
第3学年 国語

■平均得点

58.5 点 (東大阪市)

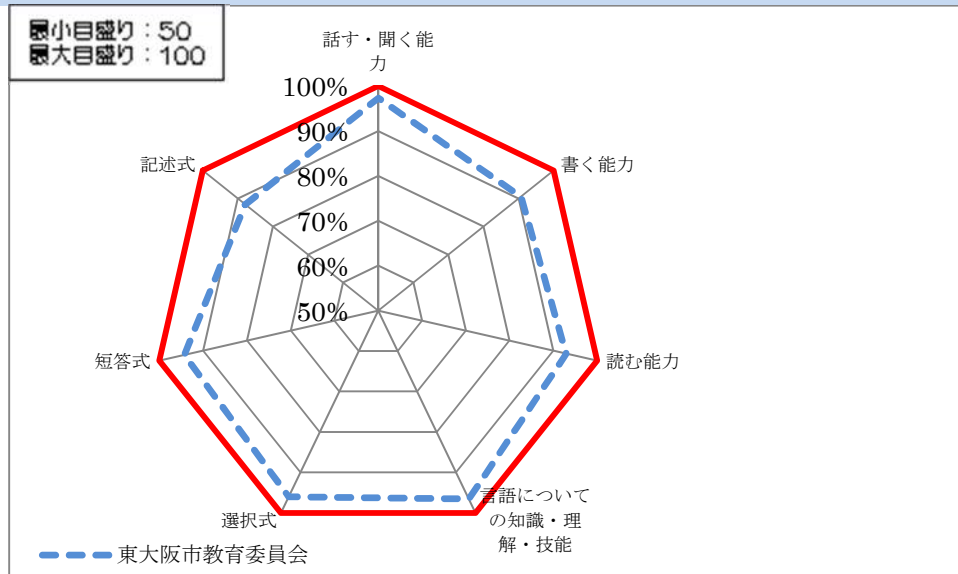
61.7 点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・70~74 点をピークとする右寄りの山型となっている。
- ・府の分布に比べ、80 点以上の分布が少ない。

■領域別等の平均得点率のレーダーチャート (大阪府を 100 とした時の東大阪市の得点率)



- ・「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」「選択式設問」において大阪府との差はほとんどない。
- ・「書く能力」「記述式設問」において他の観点と比較して大阪府と開きがある。

■特徴的な傾向と対策

- ・文脈に即して漢字を正しく書く設問においては、「ひろう (拾う)」（府との差 -2.6 ）、「テンボウ (展望)」（府との差 -6.4 ）、「きびしい (厳しい)」（府との差 -0.5) と設問によってばらつきが見られる。日常的な反復学習・家庭学習などにより、確実な定着を図ることが求められる。
- ・「短歌を説明した文の空欄に当てはまる言葉として適しているものを抜き出す」設問は、大阪府との開きが大きく、文章に表れているものを見かたや考え方をとらえることに課題がある。授業の工夫と同時に、多様な表現の文章に触れる機会を増やすことが求められる。
- ・古文を読んだ上で、登場人物の行動の理由を現代語で書く設問は、正答率が 9.4% (大阪府 12.5%) で、極端に低く、古文の読解力および自分の考えを書くことに課題がある。古文の学習についての知識・理解を深めるとともに、すべての教科等での「書くこと」の充実が求められる。

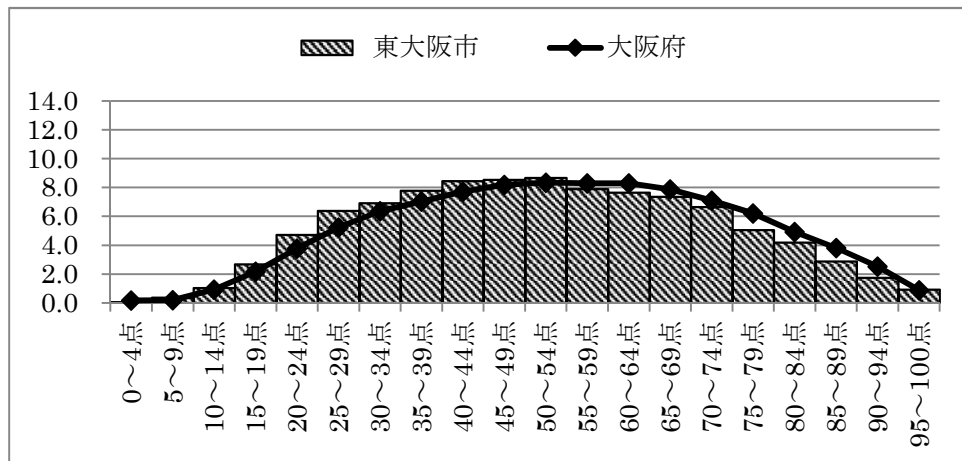
第3学年 社会

■平均得点

51.9 点 (東大阪市)

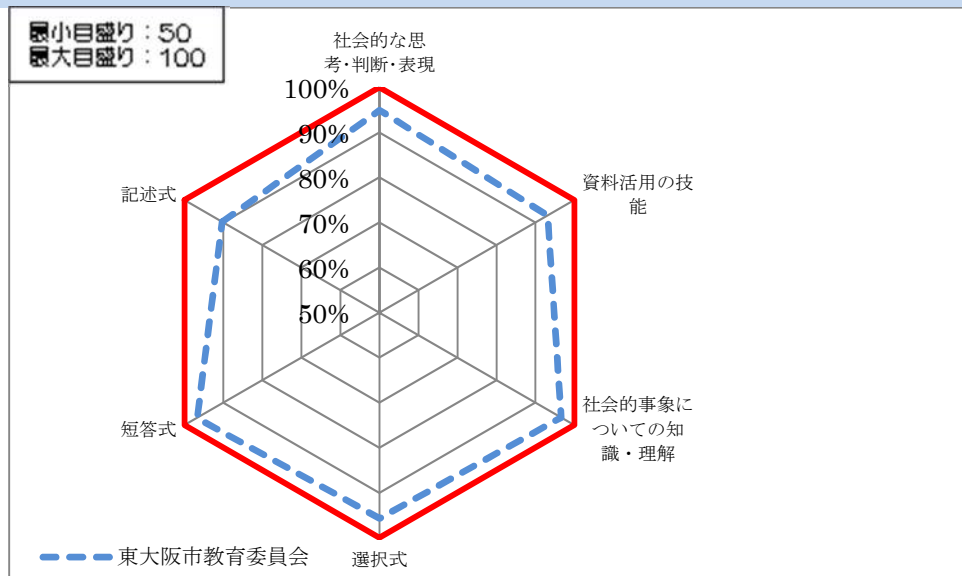
54.4 点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・50～54 点がピークとなるなだらかな山型となっている。
- ・府の分布と比較して、75 点以上の生徒の割合が少なく、20～44 点の層が多い。

■領域別等の平均得点率のレーダーチャート (大阪府を 100 とした時の東大阪市の得点率)



- ・すべての観点等において、大阪府と比較すると、若干差が見られるが、昨年より改善されている。
- ・他の解答形式に比べて、「記述式」の設問の得点率が低く、無答率が高い。

■特徴的な傾向と対策

- ・2万5千分の1の地形図上の長さに対応する実際の距離を選ぶ設問では、大阪府(67.0%)との開きが大きい(59.2%)。縮尺を実際の距離に計算する技能に課題がある。地図上の長さや実際の距離のスケール感の違いを実感する体験が、授業以外の日常的な活動でも重要となる。
- ・オーストラリアの気候帯を記載した地図を見て、指定の雨温図を選んだ理由を説明する問題では、府(60.5%)と比較して正答率が低い(55.7%)。地図やグラフなど複数の資料から情報を適切に取り取り、資料に基づいて判断理由を表現する活動を授業などでさらに取り入れるなど、資料活用の技能と言語表現を総合的に結びつけた活用力の育成が求められる。
- ・オーストラリアの鉄鉱石鉱山での「露天掘り」を回答する設問は正答率25.5%で、大阪府(17.6%)の正答率を上回り、法然の開いた「浄土宗」を回答する設問(正答率39.7%)も、大阪府(38.4%)を上回るなど、知識・理解の定着に一定の成果がある。社会的事象の知識・理解の定着をはかりながら、それらを活用し、思考・判断・表現する活動を授業等で取り組みたい。

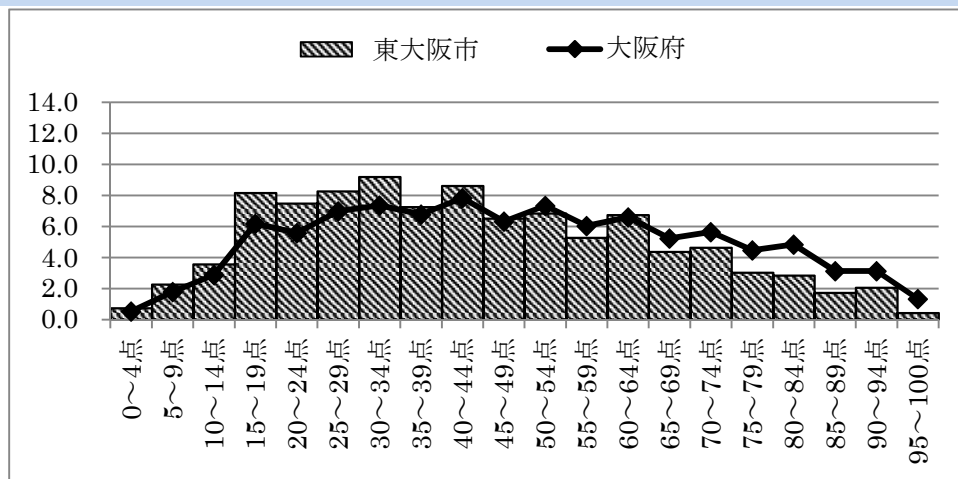
第3学年 数学

■平均得点

43.7点 (東大阪市)

49.0点 (大阪府)

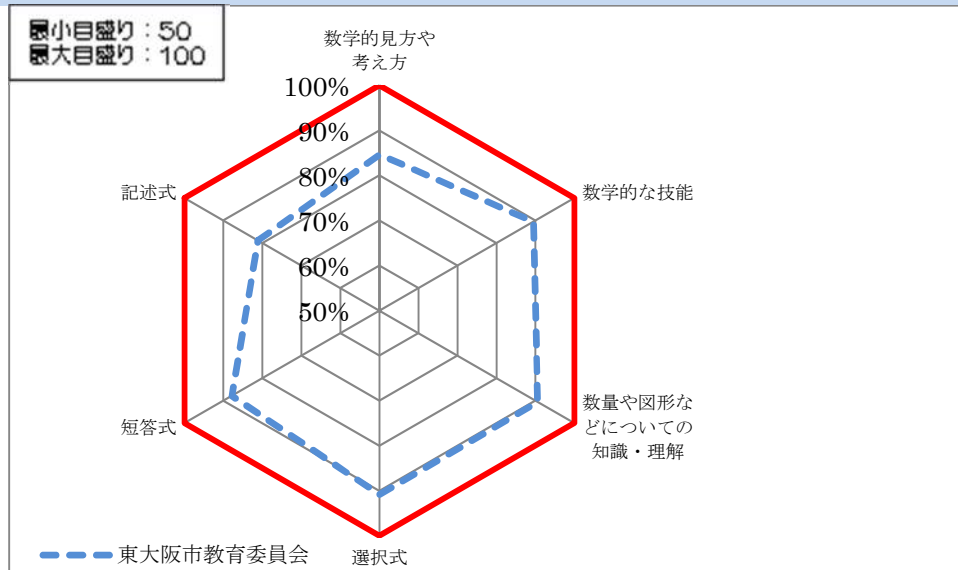
■得点別分布の割合



・府の分布と比較して15点~44点の生徒の割合が多い。

・府の分布と比較して65点以上の生徒の割合が少ない。

■領域別等の平均得点率のレーダーチャート (大阪府を100とした時の東大阪市の得点率)



・評価の観点では、「数学的な見方や考え方」が、他の観点に比べ大阪府との開きがある。

・設問形式別では、「記述式」の設問が「選択式」「短答式」の設問と比較して、大阪府との差が大きい。

■特徴的な傾向と対策

- ・「関数 $y = \frac{1}{2}x - 3$ のグラフの、 x の変域 $-2 \leq x \leq 4$ に対応する y の変域を求める」設問では、全設問中、大阪府との開きが最も大きい (東大阪市 35.5% 大阪府 45.9%)。関数の学習では、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することが大切である。 x の変域の端点に対応する y 座標を求めたり、グラフを用いて変域を視覚的に捉えたりする活動を取り入れた授業づくりが求められる。
- ・「切り取った三角錐の体積と、元の立方体の体積の比を求める」設問では、全設問中最も正答率が低い (東大阪市 2.9% 大阪府 5.9%)。具体的な長さが示されていないことが、府も含めた正答率の低さの要因の1つと考えられる。空間図形の学習では、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばしていくことが大切である。

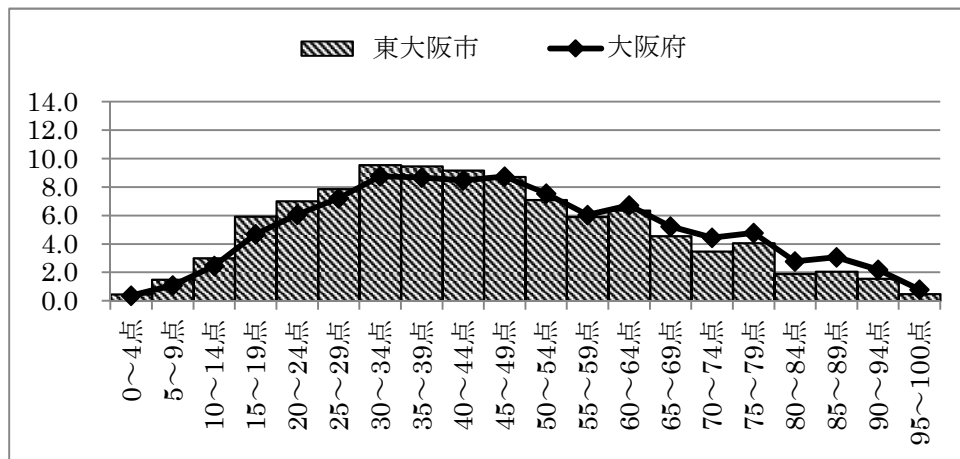
第3学年 理科

■平均得点

44.5点 (東大阪市)

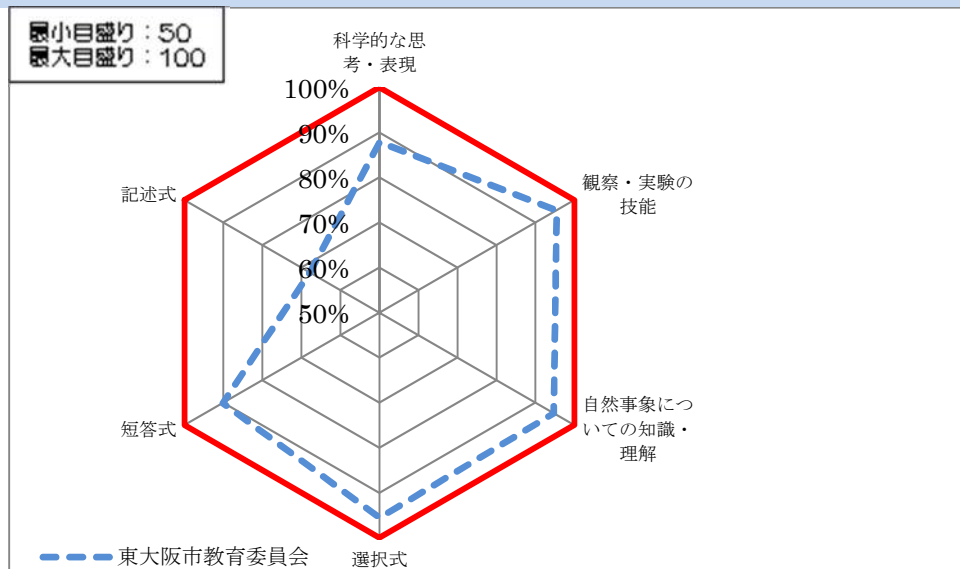
47.7点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・30点～34点をピークとして、左寄りの山型となっている。
- ・府の分布と比較して、65点以上の生徒の割合が少ない。

■領域別等の平均得点率のレーダーチャート (大阪府を100とした時の東大阪市の得点率)



- ・観点別では、「科学的な思考・表現」において、大阪府との比較で最も差が大きい。
- ・設問形式別では、「記述式」の設問が、大阪府との差が特に大きい。

■特徴的な傾向と対策

- ・「ばねの長さからばねに加えた力の大きさを求める」設問は、全設問中で、大阪府との差が最も大きい (東大阪市 35.5% 大阪府 43.4%)。フックの法則からばねに加えた力の大きさを求めることができるかどうかを問う設問であり、科学的な知識や概念を活用して、実験や観察の目的に応じて結果を分析し、解釈していく力を身につけさせていくことが重要である。
- ・「実験に使用した物質を選んだ理由を書く」設問は、全設問中最も正答率が低い (東大阪市 6.7% 大阪府 10.9%)。溶解度曲線のグラフから溶質を特定した理由を説明することができるかどうかを問う設問である。実験・観察の過程からグラフを基に結果を類推するなど、様々な事象について根拠をつかんで解釈し、論理的に表現する活動を効果的に取り入れ、理解をより一層確かなものとする工夫が求められる。

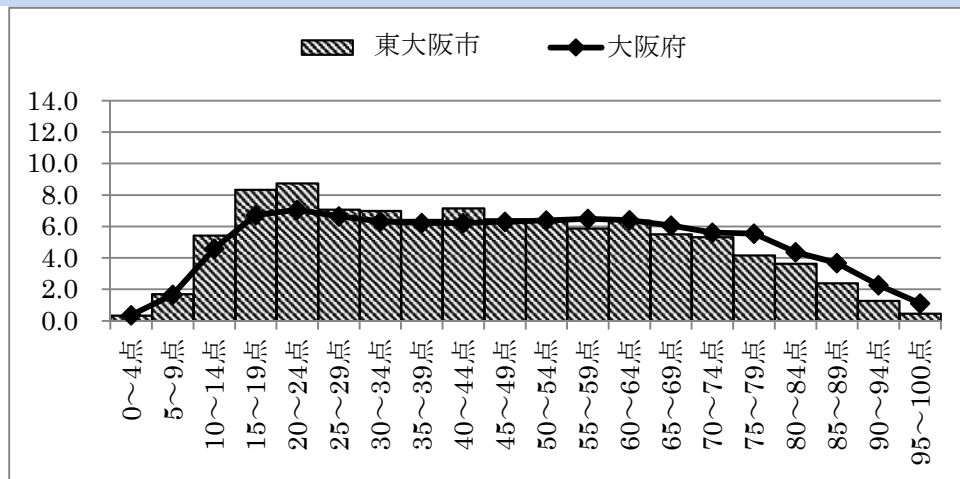
第3学年 英語

■平均得点

44.7点 (東大阪市)

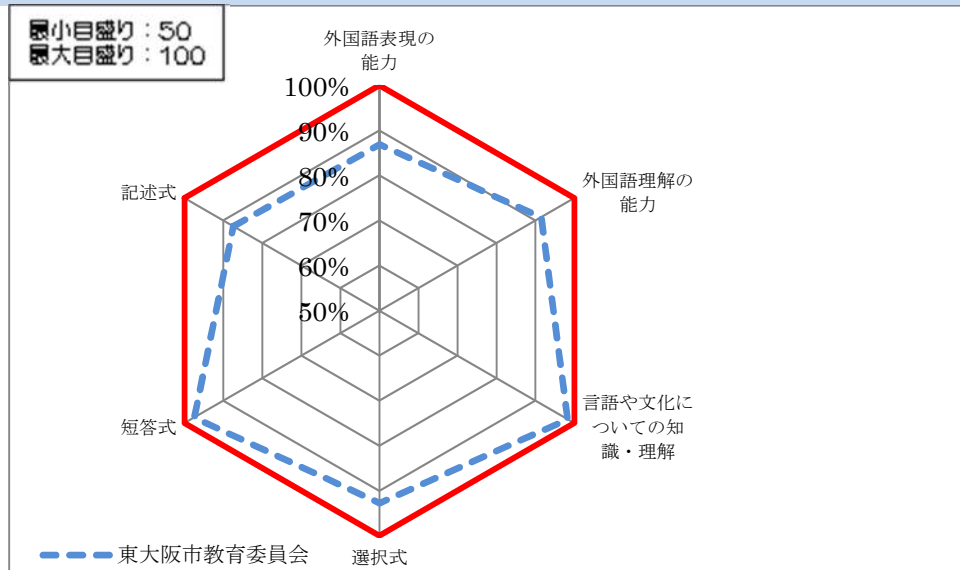
48.4点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・15点～24点がピークとなっているが、25～74点まで得点別割合がほぼ同じ分布となっている。
- ・府の分布と比較して、75点以上の生徒の割合が少ない。

■領域別等の平均得点率のレーダーチャート (大阪府を100とした時の東大阪市の得点率)



- ・「記述式」「外国語表現の能力」(領域の書くこと)において大阪府と比較すると大きな開きがある。
- ・「短答式」「言語や文化についての知識・理解」においては、大阪府との差はほとんどない。

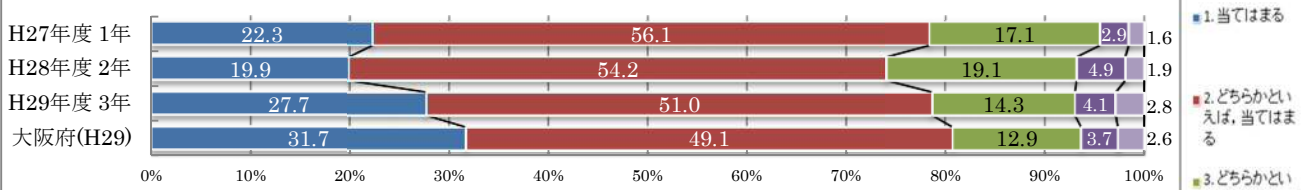
■特徴的な傾向と対策

- ・「Museum Park バス停までの所要時間を書く」設問では、大阪府との開きが大きい(東大阪市 31.6% 大阪府 38.6%)。バスの時刻表と英文を読み、時間に関する内容を理解し、適切に答える設問である。英文のキーワードを読みとる力と読みとった内容を日常的な場面に活用する力が求められる。まとまりのある文を読み取り、活用するような4技能の統合的な授業が求められる。
- ・「道に迷っている人にどのように話しかけるかを英文で書く」設問では、全設問中大阪府との開きが最も大きく(東大阪市 41.0%、大阪府 48.5%)、無答率(東大阪市 27.0%、大阪府 22.6%)の高さも目立つ。イラストやポスターを見て、適切なまとまりのある英文を書くことができるよう、授業内外での表現する・書く活動が必要であり、外国語表現の能力(書くこと)の向上が求められる。

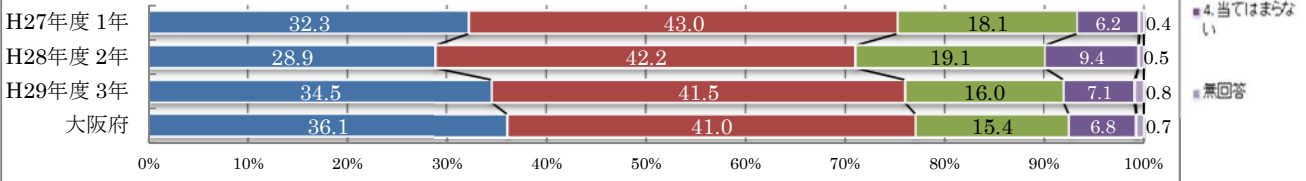
アンケート結果

■中学校3年生（同一集団の1年時からの変化）

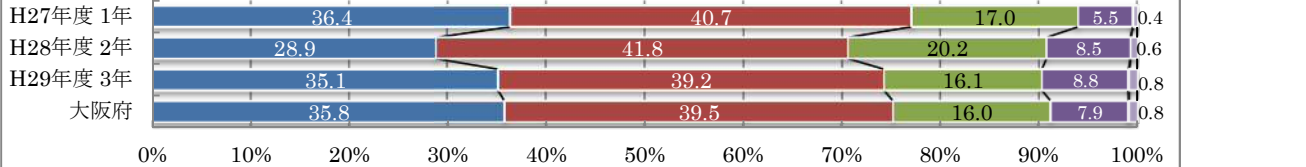
国語の授業の内容はよく分かる。



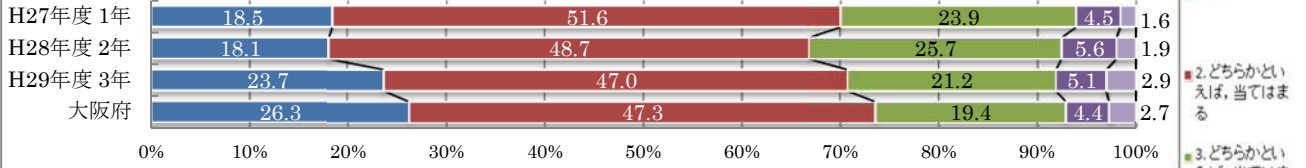
数学の授業の内容はよく分かる。



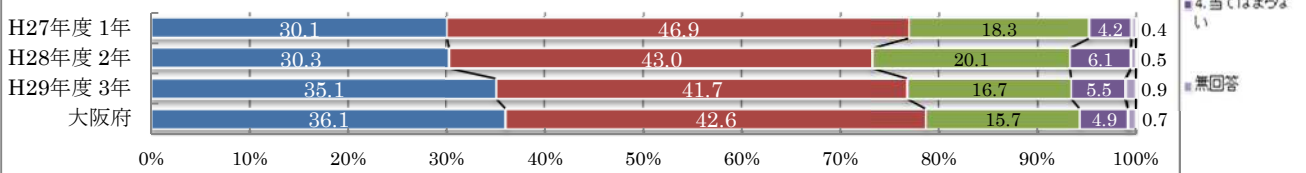
英語の授業の内容はよく分かる。



国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。



数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



■特徴的な傾向と対策

- ・ 1、2年生時に比べて、「国語・数学の授業内容が分かる」と回答した生徒の割合は、増加しているが、府平均より低い。「英語の授業内容が分かる」と回答した生徒の割合は、1年時に比べるとやや少ないが、府平均近い値である。
- ・ 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。」に「当てはまる」と回答した割合は2年時より上がっているが、府平均より若干低い値である。
- ・ 各教科の授業で、様々な事象に対し、理由や根拠をもとに自分の考えを述べたり、説明・思考する過程を意識した授業改善が求められている。「主体的、対話的で深い学びの実現」という観点で再整理を行い、一人ひとりに応じた指導の工夫・充実をはかるとともに、日常的な家庭学習習慣定着の工夫が求められる。